

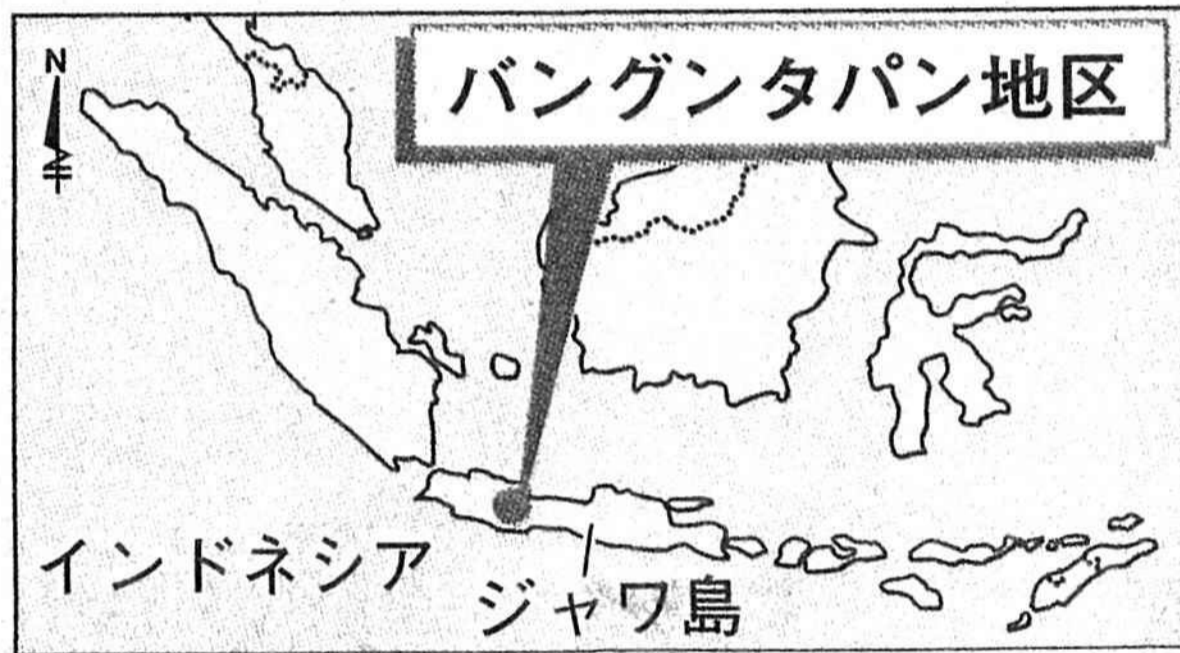
地震被害のジャワ島バングンタパン地区

AMDAが復興支援

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）は、約六千人の死者を出したインドネシア・ジャワ島中部地震の復興支援プロジェクトとして、被害の大きかったバントウル県バングンタパン地区で、損壊した保健センターの建設に着手した。来年三月の完成を目指す。

AMDAは五月二十七日の地震発生直後から日本人八人を含む七カ国延べ四十一人の医師、看護師らを現地に派遣。六月十七日まで巡回診療など緊急救援活動

を行なった。復興支援策を模索していた八月、AMDAインドネシア支部が島中南部のバントウル県の状況を調査。



来年3月目標 保健センター建設始まる

保健センター約二十カ所が損壊状態で、がれきの除去すらできず、ひび割れた診察室や屋外の簡易テントで診療▽被害が深刻な村の住民は市街地の病院への通院を強いられていることが分かった。

バングンタパン地区には十月、小西司技術協力部長を派遣。地域から土地の提供を受け、AMDAが建設、県や保健局が管理することで合意した。

建物の詳細は今後の協議で決まるが、AMDA本部は「耐震性を向上させ、持続性の高い保健センターにしたい」と話している。

（斎藤章一朗）